

専門部会におけるヒアリングについて（報告）

令和6年 10 月9日に開催された専門部会において、教育指導課、教育支援課、中高生特化型児童館（下保谷児童センター・ひばりが丘児童センター）へヒアリングを行いましたので、次のとおり報告します。

～専門部会のテーマ「オンライン時代の居場所を知る」～

【令和6年 10 月9日の専門部会（ヒアリング）：①教育指導課 ②教育支援課 ③委託児童センター】

<① 教育指導課より>

- 全国的に不登校の児童生徒数は増加傾向にあり、市内の小学校 18 校、中学校 9 校の中で、不登校の児童生徒数が増加している傾向がある。
- 学校としての不登校の未然防止策は、係活動、クラブ活動、委員会などで自己肯定感を高めもらう。学校が居心地のよい居場所にするために指導しているところではあるが、それでも不登校になってしまう場合がある。
- 不登校の原因としては、友人関係や人間関係の問題、親子の関わり方、学校生活に対するやる気の欠如、不安やうつなどが主な原因である。
- 不登校児童への支援として、訪問や電話連絡、オンライン授業の提案などを通じて支援を行っている。
- 学校に行けず、オンライン授業を受けている児童は小・中学校にいますが、特に中学生はオンライン授業を勧めても受け入れられない状況である。学校との関わりが途切れないように、指導助言を行っている。

<② 教育支援課より>

- 不登校児童生徒への支援は、学校に登校するという結果のみを目標にするのではなく、児童生徒が自らの進路を主体的に捉えて、社会的に自立することを目指す必要がある。
- 教育支援センタースキップ教室では、小学生・中学生が通える教室を提供し、学習指導を通じて自立に向かう力を育てている。
- 教育支援センタースキップ教室では、5教科の学習に関わらず、美術や陶芸、調理実習なども行っている。子どもの状況に合わせて、基礎学力の定着も行っている。
- 不登校ひきこもりセーフティルームの Nicomo ルームとニコモテラスは同じ場所に存在し、曜日によって運営状況は異なる。
- スキップ教室、Nicomo ルームやニコモテラスでは子どもが持っているタブレットを用い

てオンラインの対応も可能であるが、希望者はいない状況である。実際に対面で遊ぶことで通いつけている子どもが多い状況である。

- 教育相談では、市役所にて臨床心理士等が相談に応じている。
- スクールソーシャルワーカーは、教育や福祉等の専門家を市内の小中学校に毎週派遣をしている。主な業務としては子どもや保護者の相談に応じる。家庭訪問等、学校以外の場所に出向いて支援をする。支援先に一緒に出向くなどである。
- 保護者への支援について、保護者向けの情報提供や啓発活動を行っている。講演会や不登校に関するリーフレットの作成、ストレスケアの情報提供なども実施している。

＜③-1 下保谷児童センターより＞

- 児童センターには目的をもって来館する人が多い。ダンススタジオと音楽スタジオの利用については、高校生の利用が多い状況である。
- 年に数件、不登校の子どもが来館するが、ソーシャルワーカーと共に来館している。小さい頃に下保谷児童センターを利用して、自分の安心できる場所、行きたい場所を本人に確認したところ、下保谷児童センターが挙がった。
- 自由来館のため、不登校か否かが分からない。遊びに来ている子ども達から不登校について情報提供を受けることもある。
- 課題をやりたい、楽譜はオンライン上のものを活用しているため Wi-Fi の要望は多くある。

＜③-2 ひばりが丘児童センターより＞

- 一日の利用は中高生合わせて60名程度。夏休みなど、多いときは中高生 100 名以上の来館がある。
- 利用方法はスポーツ目的と居場所利用の2つに大きく分かれる。
- 居場所利用の子どもたちのなかで、学校に行けていない子どもたちの利用もあり、センターで安心して過ごせるようサポートしている。
- 中高生自主企画やお祭りのスタッフなど子どもたちが活躍できる場を一緒に作り、少しずつ学校や家庭での話をしてくれるような関係性づくりに努めている。
- 児童センターで何をしたいか、何があったらよいかのアンケートを行った結果、Wi-Fi の要望は多くある。

＜主な質疑応答＞

- スキップ教室と Nicomo ルームはどのくらいの利用者がいるか。
→令和5年度はスキップ教室2教室合わせて78人である。小学生より中学生の利用が多い。Nicomo ルームは74人である。ニコモテラスは103人である。（教育支援課）
- 児童センターでは、1人でスマホだけを触っている子どもはいるか。
→友達と待ち合わせをしている間のみで長時間1人でスマホを触っている子どもは見受けられない。（下保谷児童センター）
普段は友達同士で遊んでいるが、稀に一人で居たい、動画を見たいという子どもはいる。（ひばりが丘児童センター）
- 不登校などを未然に防ぐ取り組みは行っているのか。

→長期休業明け前にスタートアップ期間を設けて、不安などの相談をできる面談を行っている。他にも休み明けにテストを行わないなどの取り組みをしている。（教育指導課）

- 児童センターで子どもたちの相談を受けるなかで、うまくいかないなどの難しさはあるか。
特定の職員と話したい子どももいるため、難しさを感じるときもある。記録を残しておいて誰でも対応ができるようにはしている。（ひばりが丘児童センター）

- 支援している子ども達が復帰する要因はどのようなものなのか。

→スキップ教室で把握しているものでは、学年の変わり目や中学生が高校生になるタイミングの段階での気持ちの変化が多い。多くは高校に通いたいと思う子ども達である。

一人一人の気持ちや状況に合わせて少しずつステップアップしていけるように支援している。（教育支援課）

<意見等>

- 悩みを持つ子どもや親同士を繋ぐような機会が必要に感じた。悩みを共有できる、安心できる場をオンラインで提供することができれば、踏み出すきっかけにもなるのではないか。

児童センターの Wi-Fi 整備については居場所として求められているため、課題やリスクなどあるが、整備は必須である。

【今後のヒアリング予定】

2月に実施予定の専門部会にてオンラインの居場所の取組を行っている団体からヒアリングを行う予定。